

令和4年度福岡県子ども会育成連合会主催

第1回

ふるさと運動

糸島市子ども会育成会連絡協議会

令和4年度 福岡県子ども会育成連合会ふるさと運動実施要項

〔目的〕 それぞれの地域で活動する小学生、中学生に対し、ふるさと糸島市の自然、風土、歴史、文化、産業などへの理解を深めつつ、糸島の魅力やすばらしさを直接体験することにより、魅力の宝庫である糸島への郷土愛を深めることを目的とします。

〔主催〕 福岡県子ども会育成連合会

〔主管〕 糸島市子ども会育成会連絡協議会（糸島市役所地域振興部 生涯学習課）

〔日時〕 第1回 9月23日（金・祝） 9時受付、16時解散
第2回 10月10日（月・祝） 9時受付、15時半解散
第3回 11月23日（水・祝） 9時半受付、16時解散
第4回 12月4日（日） 10時受付、15時解散

〔参加対象〕 糸島市に居住する小学5年生から中学3年生を対象とする。
ただし、4回の活動すべてに参加できることを原則とし、参加者には保険（全国子ども会安全共済会）への加入が必要となります。

〔申込方法〕 所定の申込書に必要事項を記入後、参加費を添えて、下記の事務局に提出してください。

〔申込締切〕 令和4年9月9日（金） ※定員／20名、先着順となります。

〔参加費〕 4,000円（活動4回分） ※申込書提出時に徴収します。

〔その他〕 （1）保険（全国子ども会安全共済会）は150円となります。
地域の子ども会で加入されている場合には、再度の加入は必要ありません。
加入されていない場合、地域の子ども会で加入してください。
子ども会に参加されていない場合には、事務局で加入手続きをしますので、お申込みの際に150円をお支払いください。
（2）参加費は昼食、交通費に充てます。

【お問い合わせ先】

糸島市子ども会育成会連絡協議会事務局
（糸島市役所 生涯学習課内）

担当：西原

TEL：332-2092 FAX：323-2344

メール：shogaigakushu@city.itoshima.lg.jp

◇◇ ふるさと運動の活動内容 ◇◇

【第1回】～昔の前原町はどうだったの?～

- 日時：令和4年9月23日（金・祝） 9時集合～16時解散
- 集合場所：前原コミュニティセンター ○解散場所：前原コミュニティセンター
- 内容：受付・開会式 ⇒ 前原旧市街地（唐津街道）に関するお話し ⇒ 散策／旧市街地（唐津街道） ⇒ 料理に挑戦／ふるさとの味「そうめんちり」 ⇒ 昼食（コミュニティセンター） ⇒ 散策／古民家見学 ⇒ 閉会式 ⇒ 解散

【第2回】～糸島の歴史を知ろう!～

- 日時：令和4年10月10日（月・祝） 9時集合～15時半解散
- 集合場所：高祖神社 ○解散場所：伊都国歴史博物館
- 内容：受付・開会式 ⇒ 高祖神社見学とお話し ⇒ 怡土城城壁跡見学 ⇒ 伊都国歴史博物館見学 ⇒ 昼食（ファームパーク伊都国） ⇒ ものづくりに挑戦／勾玉づくり（伊都国歴史博物館内） ⇒ 閉会式 ⇒ 解散

【第3回】～糸島の農業を体験しよう!～

- 日時：令和4年11月23日（水・祝） 9時半集合～16時解散
- 集合場所：糸島手造りハム ○解散場所：ブルーベリーガーデン伊都
- 内容：受付・開会式 ⇒ 手作りハムづくりに挑戦（糸島ハム工場内） ⇒ 昼食 ⇒ 農業体験・農園見学（ブルーベリーガーデン伊都） ⇒ JA（糸島農業協同組合）カントリーエレベーターのお話し ⇒ 閉会式 ⇒ 解散

【第4回】～糸島の名産品、漁業を知る!～

- 日時：令和4年12月4日（日） 10時集合～15時解散
- 集合場所：北伊醤油（船越） ○解散場所：引津コミュニティセンター
- 内容：受付・開会式 ⇒ 北伊醤油蔵（醸造所）見学とお話し ⇒ 船越漁港カキ小屋作業の見学とお話し ⇒ 昼食（カキ小屋） ⇒ 引津コミュニティセンター ⇒ 閉会式（振り返り） ⇒ 解散

※活動内容については諸事情により、変更になる場合があります。

前原商店街の歴史をたどり、いろいろなお店を見てみよう

前原商店街には古くから続く伝統のあるお店と、空き店舗を利用して街を活性化しようと新しく開店したお店が並び並んでいます。

古くからのお店は、どこも100年近い歴史があります。そして新しいお店は、若い人たちならではの、前原商店街の未来への想いがあります。糸島の野菜や肉・魚を使った料理や、糸島の作家さんの作品を販売したり、自分たちの店から糸島の良さを発信していこうと頑張っています。

また、江戸時代、唐津藩主や福岡藩主他が参勤交代で毎年通行した唐津街道宿場町として栄えた前原宿(まえばるしゅく 現在の前原商店街)。宿場町だった頃の名残や、明治～昭和の建物などが多く残っています。伝統あるお店や新しいお店、昔の史実を見て知って、古い歴史に興味を持ったり、お店を開くことお店を続けることなど、地元糸島の商業についても考える機会になればいいなと思っています。

お店への取材や、書籍からの引用、SNS やブログからの引用により資料を作成しています。そのため少し難しい言葉や文章になっている資料もあります。

午前中

前原コミュニティセンター
開会式
唐津街道前原宿のお話
前原商店街の歴史とこれからの糸島

前原商店街を散策
昔からのお店、新しいお店

寄り合い処
糸島のくらしと産業のお話

前原コミュニティセンター
郷土料理糸島そうめんちりを作ろう

午後

唐津街道前原宿 前原商店街を散策

昔からのお店、新しいお店
ここには何が違っていたのだろうか
江戸時代～昭和の歴史探訪

古民家見学 古材の森

前原コミュニティセンター
閉会式

大江進物店

創業 80 年。先代が陶器店としてスタートした。現店主が 33 歳から継いで商売している。新しいお店や量販店では取り扱っていないような昔懐かしい品物がある。宝探しのような感覚で廻り出し物を見つけられるかもしれない。昔ながらの店、商売の良さは、お客さんと一対一で相談に乗りながら、説明を聞き納得して買い物してもらえるところだ。

おもちゃの油比 (ゆび)

創業 100 年。大正時代から営業している。おもちゃと駄菓子販売。駄菓子は常に 300 ~350 種類ほど置いていて、プラモデルも多数あるのでマニアの人が訪れたりする。言は帰宅後の小学生でにぎわっていたが、今は子どもの数も減りずいぶん寂しくなってきた。放課後の 3 時頃からやって来る小学生が多く、夏休みにもよく買いに来てくれる。最近近所の子もだけではなく、車で親子連れでの来客もあるそうだ。ネットや口コミの影響もあるのだろう。おとなも懐かしさに目を輝かせ、子どもに戻れるようなお店。

「八朔(はっさく)」の節句の際の玩具も、このお店で買うことができる。今ではあまり見られないが、糸島では(各地でかなり違うようだ)男の子が生まれると、次の 8 月 1 日(八朔)に、笹にたくさんのおもちゃをつり下げて近所の子もたちにとってもらう習わしがあり私も長男が生まれた年に姑のはからいで行った。取ってもらった後は近所の神社に持って行ったのをおぼえている。

糸島くらし×ここのき

創業 12 年の中堅のお店。糸島の約 70 のつくり手の作る食品や暮らしの道具、雑貨などを販売。テーマは「自然とともにある暮らし」。糸島には透き通った海、そびえ立つ山々と平野が広がり、豊かな自然や人の繋がりがあり、日々暮らしながら手仕事しているつくり手がたくさんいる。ここのきには、この土地で生まれた台所や食卓の道具、食べ物、雑貨など糸島で暮らすつくり手の手から生まれたたくさんのモノがある。商品を販売するだけでなく、そのものにつまった想いや、つくり手のモノづくりに対する姿勢、自然とともにあるつくり手の暮らしぶりや、身近な自然に向けて暮らす楽しさを表現し「糸島のくらし」なども伝えていく。店内には ・ちいさな喫茶室・日々と花の花屋・糸島材木店(一枚板、端材販売)と名付けられた素敵なお空間もある。オンラインショップでも商品を購入できるが、ぜひこの今と昔が融合したような造りの店舗に足を運び、つくり手たちの洗練された作品の数々に触れてほしい。素敵な笑顔で出迎えてくれる野口さんと千々岩さん。迷った時は気軽に相談に乗ってもらえ、ハイセンスなお土産を選ぶことができる。糸島の陶家宮田ちひろさんのカレンダーやポストカードも手に入れることができる。個性たっぷりのつくり手たちの作品は、もちろん自分へのご褒美としても嬉しい。

オサダ呉服店

創業 100 年近く。着物は昔からの日本文化。新しい感覚を取り入れながらも、伝統を受け継ぎ後世に繋げていく役目があると思っている。夏季は浴衣を扱っていたが、次は七五三。もちろん成人式の振袖も取り扱っている。祝事・冠婚葬祭・時節にあわせた着物や小物が豊富にそろえられており、仕立てや洗いはぎ(着物のクリーニングのひとつの方法)なども、依頼することができる。とても親切に相談に乗ってくださり、質の良いものを購入できる。最近、子どもの成長を祝う行事に着物を着る親御さんも増えているので、どんどん着物文化が広がってほしい。

オサダ靴店

創業 90 年。流行りの靴というよりは、機能性を重視して、外反母趾やひざ痛などの症状の相談に乗りながら、その人に合った履き物を提供している。スニーカーなどの運動靴も、足の大きさを実測したり、特徴を説明して一番その人にとって良いものを勧める。お年寄りから小中学生と色々なお客さんが訪れている。

実は SNS 発信などしていないのだが、和装のそうりや下駄の修理の依頼が日本各地から来ているという。ネットで検索すると高評価で上がってくる。知識が豊富で、丁寧な仕事が信頼され評価が高いのだ。和装のそうりは本格的なもの、軽装用など用途に合わせて違うので、前もって連絡、やり取りをし、実物(あるいは写真)を見てから修理か買い替えかを説明し決めてもらう。もちろん修理後のアフターサービスも充実していて、靴の購入の際も同じである。85 歳の母は外反母趾がひどく指先が変形してきているが、とても親切丁寧に足や靴のことを説明、アドバイスしてもらい、普通の靴屋さんではこんなに親身になってくれるところはないと喜んでいて、足や体のために良い靴を選びたい人のための靴屋さん。

角屋食堂

創業大正 10 年頃。角にあるから角屋食堂。今も昭和の面影を残す数少ない食事処で、昔の大衆食堂そのままの味わい深いお店。メニューにも料理の味にも懐かしいあたたかみを感じる。入り口横には食品サンプルが飾ってあり、大人には懐かしく若者には珍しく思えることだろう。店内は思ったより広めで、あちこちにお店や商店街の歴史を感じさせるものが貼ってある。レジにはお勤定場の案内板が掲げてあり、懐かしい雰囲気の中で食事ができる。せっかくなら 23 日はここで昼食をいただきたいと思ったのだが、家族二人でお店をしてるため、大人数は対応できないとのこと。とても残念。

よしむら乾物店

創業 50 年ほど。干物や干しいたけなど、乾物といわれる商品などを扱っている。なたね油やテングサなども置いてあり、店内は昔ながらの陳列風景が見られる。最近ではパールアガー(海藻から抽出精製された粉寒天のようなもの)を求めて来る若いお母さん方もいるという。コロナ禍でお菓子作りに使用する家庭が多いのだろう、どこにでもは置いてないらしく口コミで伝わってるようだ。いりこや干しいたけなど、たまには昔からあるお店で買ってみたいだろうか。

糸島の顔が見える本屋さん (いとかお)

オープンして 1 年の新しいお店。本屋さんだけど普通の本屋さんとは違う?ここは本棚の一区画をオーナーとしてそれぞれが借り、自分が好きな本、お勧めしたい本などを持ち寄り運営していく形の個性あふれる本屋さん。各本棚からお気に入りの一冊を選んで購入できる。100 軒ほどある本棚のオーナーは随時募集しているが、今のところ満室ならぬ満棚である。そんな人気の本屋さんは店番もオーナーが交代で行っている。SNS の情報を見て来店する人も多い。本好きな人には本屋と違った品ぞろえが楽しめることだろう。最近では子ども向けの本など、子育て世代に嬉しい本も仲間入りしている。店頭ではコーヒーやカレーなどの販売が行われる日もあるので、楽しみは本だけに限らない。

郷土文具 小富士

オープンから 1 年ほどの新しいお店。こじんまりした店構えで洗練された文具が並び、ここでしか買えない文具、糸島の作家が作ったオリジナル文具が、郷土文具として置いてある。木を使ったもの、布を使ったものといった郷土文具のスペースが設けてあり、作家の個性あふれる文具を楽しむことができる。20~40 代の利用が多い。

樽崎米穀店

創業 100 年以上。現在、米と灯油の販売、配達をしている。親切丁寧で、美味しいお米を販売してくれるので、昔からのお客さんが多い。お米はお店で精米してつきたてを提供している。灯油の配達をしてもらえるのはありがたい。

金丸まんじゅう店

現在は店頭での販売はしてないが、二日前までにお問い合わせすれば蒸しまんじゅうを買うことができる。

西山豆菓子店

甘納豆、ピーナッツ菓子(イカピーなど)、豆菓子(チェリー豆・フライビーンズなど)手作りの豆菓子を一袋 200 円で販売。秋には店頭で芋かりんとうがたくさん並び、さつまいもを持ってお願いに行くと数日で芋かりんとうを作ってくれる。期間限定。5 kg以上、有料。

みんなの

2020 年にオープンした未来型公民館。オープンコミュニティスペースみんなの。

人と人との繋がり新しいものが生み出されていく場として、他にはないユニークで魅力あふれる場づくり、同じ問題を抱える他地域の解決策になることを目指している。人と繋がる面白いことが起きる、思ってもなかったような、新しいことが生まれる。オモシロイ人やコトを、さらに大きくふくらませるために繋いで広げていく。そんな「場」を作りたい、その先にある未来を見てみたいというコンセプトで設立、運営されている。

施設内には、コワーキングスペースとイベントスペースがあり、中学生以上から利用できる(有料・会員登録が必要なプランもある)。利用用途は自由。仕事、勉強、読書、手仕事、などなど。イベント利用の他にも、各種カルチャー教室での利用もできる。レンタサイクルも行っているため、観光客にも人気である。

糸島ゲストハウス 前原宿(まえばるしゆく)ことのは

筑前前原駅北口のすぐそば、ちょっとレトロな赤い建物の 4 階に、ひと組限定のゲストハウスがある。なんと観光ノープランで訪れても安心の宿で、「糸島コンシェルジュ」であるオーナー野北さん夫婦が運営している。糸島にあるたくさんの名所やレストラン、カフェ、工房など、その大半を実際に訪れたことがあるというから頼もしい。客室は畳敷きの和室で、ゆったりと落ち着ける。使い勝手の良いキッチンで、近所で購入した地元の食材を調理し食事を楽しむこともできる。まるで「糸島に暮らす」ように滞在できるのが「ことのは」の特徴である。ずっと東京住まいだった野北さん夫婦は、2014 年 12 月から一年間の世界一周旅行(23 カ国 93 都市)を行い、地元福岡糸島に戻ったあと 2016 年 8 月から、ゲストハウス(素泊まりの宿)を糸島市で運営。宿の名前は「前原宿ことのは」。ことのはには「事の始まり」「古都の始まり」「世界の言の葉が出会う場所」という意味が込められているという。世界旅行体験も活かし、これからの糸島を創造していくため、たくさんのプロジェクトを企画し、講演やメディア出演も多数行っている。SNS・ブログ発信もされているのでぜひ見ていただきたい。奥さんのかなさんは写真家でもあり、地元のお店やたくさんの方々などを撮影され、あたたかみのある写真がとても喜ばれている。

辰美商店 (波多江辰典家住宅) 374.36 m²(113 坪)/1044.08 m²(315 坪)

民家(町家) 住宅兼店舗 屋号辰美商店

近世に唐津街道の宿場町として発展した旧前原宿(まえばるしゅく・現前原商店街)のほぼ中心に位置し、その中でも黒い漆喰の建物はひときわ目を引く存在。

この敷地はかつての町茶屋跡(福岡藩主が管理する半宮半民の宿泊施設で、東海道などの脇本陣に当たる)に建っているが、町茶屋の跡地が昭和初期の大恐慌の際に売りに出され、現家主の曾祖父、6代目長七が取得した土地であり、長七自ら建築計画に着手したが、完成に間に合わず亡くなった。

10 年間に及び作成された綿密な設計図と、本造立体モデルが写真で保管されている。

屋号は建築中に糸島郡内より募集し、「辰美商店」に決定した。

外観は瓦葺に黒漆喰。漆喰が黒になった理由は、戦時中の灯火管制ではなく、付近の建物が白漆喰であったため、自立つように黒漆喰にした。右から左に読む看板も今は珍しい。庭園内には稲荷社と馬頭観音を祀っている。稲荷は商売繁盛のため、馬頭観音についてはこの場所が町茶屋であった頃、殿様がここにお泊りになった際に馬が足を折る、挫くなどあったため、それから祀るようになったと言われる。自分たちばかりが立派な家に住むのは申し訳ないと祠を作った。当時長尾が三軒建つほどの値段だったという。

建物を建てるにあたり、地元の土や材木を使用することにこだわった。地元で育った木は狂いが少ないと言われ、百年の材木は百年持つ家になるという。

店先にあるタヌキの置物は戦前お店の開店祝いとして贈られたそうだが、窯元はタヌキを三体作り、福岡玉屋デパート(空襲で失う)、東区の陶器店、辰美商店に贈ったが、辰美商店が一番良いものが贈られた。戦時中、前原の北に位置する場所に小笠原航空隊という軍の飛行訓練施設があり、そこを造るために来ていた労働者が酔ってこのタヌキと相撲を取った際に片腕が取れたそうである。前原の戦時を伝える遺産でもある。

また、江戸時代後期全国をくまなく廻って日本全国の測図地図を作成した伊能忠敬一行はここ糸島にも文化9年(1812年)8月に訪れている。博多(福岡市博多区)から唐津(佐賀県)に向けて測量していく途中、当地の測量を行った。忠敬一行は、8月9日に今宿駅に入り翌日から二手に分かれて糸島半島の海岸線を実測し、忠敬は8月14日には前原宿、15日に深江駅、16日には福井浦(現二丈福井)に宿泊しながら東から西へと測量を続けていった(「測量日誌」)。前原宿での宿泊の際には、現在辰美商店が建つ場所にあった町茶屋に宿泊した。北斗七星などの天体観測を行ったと考えられるのは、古材の森がある場所だといわれる。

古材の森（こざいのもり） 旧西原邸分家

糸島地方の商家・西原家。安政2年(1855年)に呉服業を独立させた分家が宿場町として栄えた唐津街道前原宿に明治34年(1901年)に建築した、築120年の歴史を持つ古民家。存在する博多町家の中でも最大級の規模で、当初の姿を良好に保っている。吹き抜け回廊など現在の建築方法では造れないため、歴史的価値だけでなく建築的な価値も高い。

西原家は最初は小さな商店だったが、ろうそく製造や醸造業、金融業も始め、呉服業など商品の流通にも事業を拡大していった。屋号は「綿屋」。福岡藩へも多くの資金援助をし、幕末には大庄屋格を藩から与えられ、「西に前原綿屋あり」と呼ばれるほどの豪商になった。明治時代になると、呉服業を継続させながら煙草販売、度墨衡器販売など商業活動を広げ明治25(1890)年に「前原商業会」を立ち上げ、同43(1910)年には「前原商工会」に発展させ初代会長となった。また明治39(1906)年には別家の者たちと共に「老松座」を建設して開閉期に興業を行うなど篤志家・名望家として地域貢献に尽くした。(現在でも古材の森の土間部分を文化的イベントのための催事スペースとして貸し出し、多くの人に楽しませている)

平成17年に所有者から解体を依頼されたが、歴史的価値が高く、旧唐津街道前原宿の景観を残す上で非常に重要な建物であると判断し、修復・保存を行った。

現在「古材の森」として、地産地消の食事、喫茶室、焼菓子販売、コワーキングスペースなど、文化の総合庁舎として営業。絵画展や写真館など文化的なイベントも数多く企画され、雛飾りや桜の屏風の展示を行ったり、節句や旬の食材に合わせ季節の弁当を販売するなど、四季を感じながらの食事も楽しめる。風情のある坪庭、建物のレトロな雰囲気の中いただく美味しいお食事。ランチで提供される町家御膳の〈本日のお品書き〉の一番目には、「一、歴史ある明治の空間」と記してあり、至るところにお店のセンスの良さが散りばめられている。さらにレトロな時空間を楽しみたい方には、有料で二階を見学させてもらえるので、ぜひお勧めしたい。昔造りの急な階段を上ると、漆塗りの立派な欄干、素晴らしい大工仕事を感じさせる道具や空間、裕福だった証のような遊び心満載の建具など、枚挙にいとまがないほどだ。また、店の玄関横には「厩口(うまやぐち)」という馬が出入りした通路があり、当初はそちらが店の出入り口となっていたが、現在では「関守石」が置かれ立ち入り禁止を示している。関守石は丸い石に棕櫚(しゅろ)の縄で結ってあり、結び方もいろいろあるそうだ。

会 日西原邸案内図

古材の森

糸島市前原中央3-18-15
電話 092-321-4717

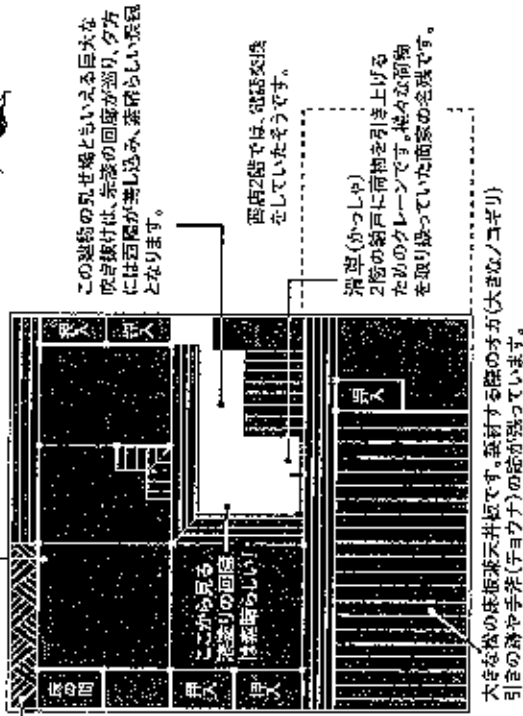


西原家は、江戸時代より唐津街道の宿場町であり、怡土・志摩郡の中心でもあった「前原宿」に店を構え、米・麦・ハゼの突などの紫荷や両替商など様々な事業を行った豪商でした。

現在、古材の森として活用している建物は、主に呉服を商いとしていた分家の建物で、明治三十四年(1901)に建てられたものです。当時は、三階建ての建物や蔵など多くの建物があつたようですが、現存するのは母屋のみで、巨大な吹き抜けや漆塗りの欄干など西原家の繁栄ぶりを偲ぶことができます。

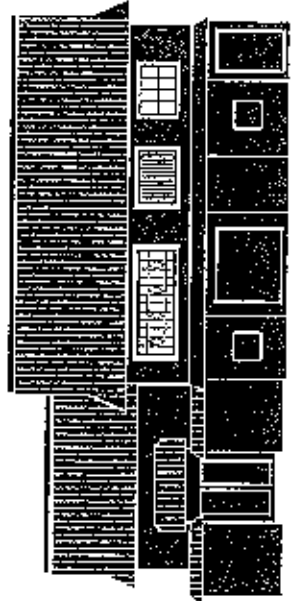


釘かくし
築後に打った釘の頭を隠すための化粧工です。
ここでは漆のデザインが施されています。



The Nishihara Residence

In the Edo Period, the wealthy merchant family Nishihara opened a shop in the heart of Itoshima, an inn-town Maabarujuku. Nishihara sold rice and wheat, exchanged money and had various businesses. Kozai no Mori was once a shop that mainly sold textiles, built for the Nishihara's relatives in Meiji 34(1901). In that time there were very few three story buildings and warehouses. The Nishihara's prosperity can be seen from this house.



おもむきい通り方の縁側です



習誌
港上舟に4畳半程の小部屋がついた二階建ての図物がありました。船便と近回を囲むように建てたようです。

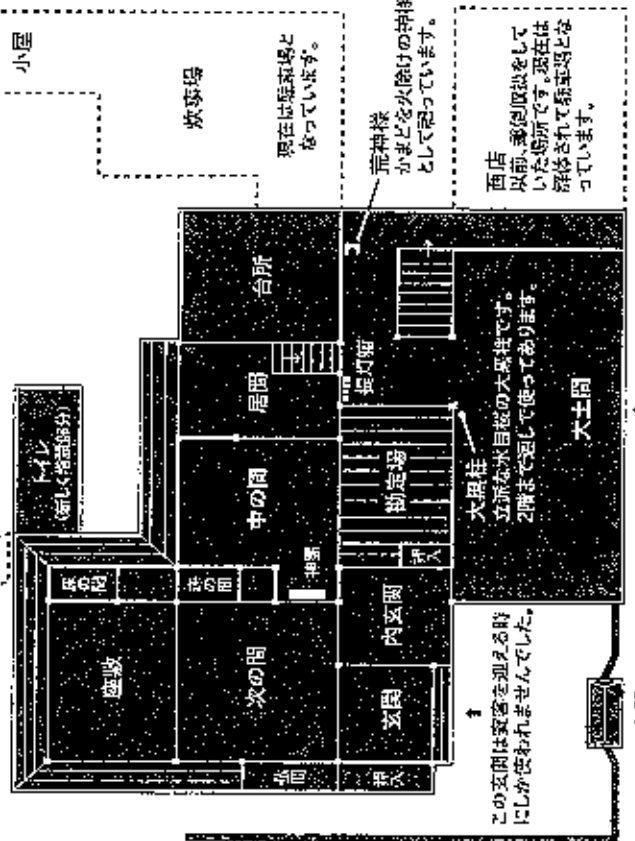
水は廊下つながらついていたそうです

茶室

茶室にあってあった板戸を移植しています。本堂前に居んだ前原豪商開港山の板戸が残っています。

庭園

栗毛、床の間に飾っている奥画は、この土蔵で使っていました。



真向いの「天平工房」は、西原家家の建物を活用して博多人形を制作されています。二階はギャラリーとなっておりますので是非ご覧ください。



西原家の歴史

西原家は、江戸時代の中頃より、筑前国福智郡西原に
あたる怡土志原郡内で原指の商家として栄えました。

天明年間(一七八、一七八八)に、志原郡若木村(現
在の福智市西区若木)から、唐津出陣の宿場町であった
前原宿に出て、遊玩を始めたといわれています。

屋号を「錦屋」といい、最初は、小さな五虎だったよう
ですが、家が繁栄する頃、錦の唐紙や漆器等の取り扱い
を始め、寛政年間(一七八九～一八〇二)から、本格的に
蘭物業、質屋にも着手し、その後、貸付や御用出陣道、
馬販と流産の波を巧にとり、大事業を拡大しました。

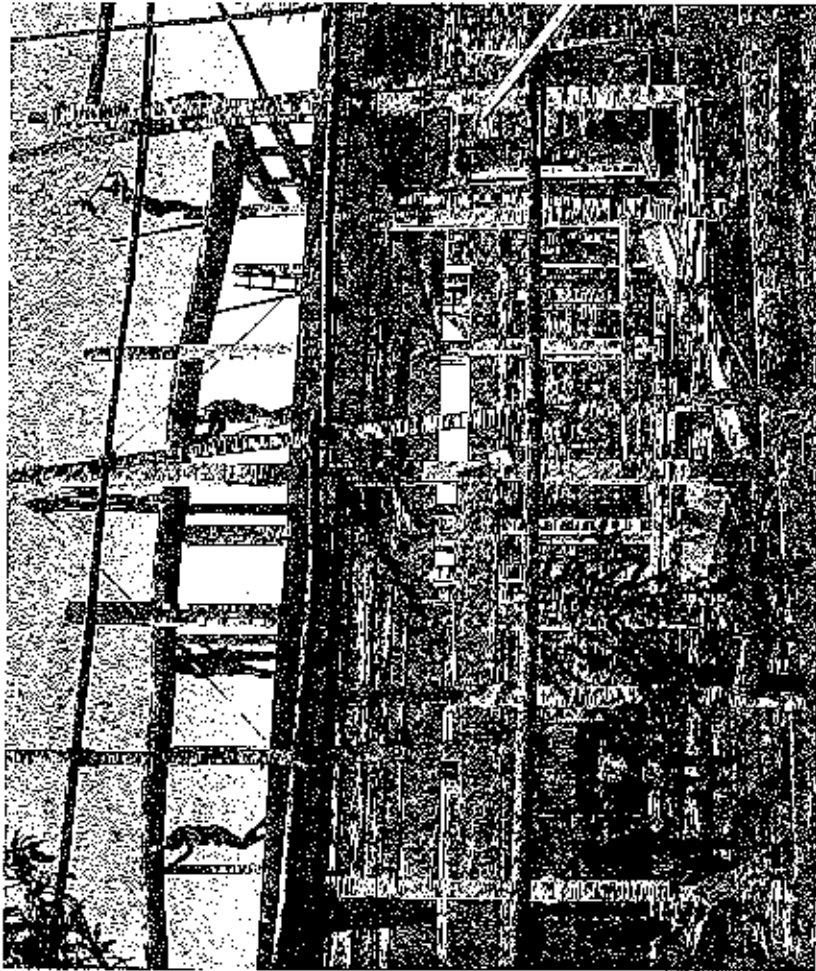
徳川幕府の財政危機にも積極的に応じ、幕末五年(一
八五二)因幡藩の貧民救済により「種崎松原出」(藩主
の参勤を目送る名懸)を仰せ付けられ、文政二年(一八
五五)、早稲崎の救済に対し、「二代大庄屋格」を申し付け
られ、その他、数度の「寸幕格」を申し出しにより、藩から
褒賞を頂戴するなど、「西に前原錦屋あり」と称される
ような盛況にまで成りました。

西原家には、主に三郎を名乗る「本家錦屋」と、三郎
を名乗る「別家松原」(原次郎を名乗る「別家出陣」)の二
家があり、明治時代になると、「出店」西原三郎は、片
取事を継承しながら、博覧会や電燈機器販賣、代弁業
など、商業活動を活かし、明治二十五年(一八九〇)に「博
覧会振興会」を創設し、同四十三年(一九一〇)には「前原
商工会」に組織させ、初代会長となりました。また、明
治二十九年(一九〇六)には、「松原」の西原七らと共に
「出陣」若原屋を創設して、機関的に販賣を行うなど
、繁栄を、名実共に、地域貢献に尽くしました。

現在、古材の礎として活用している建物は、文政二年
(一八五五)に、木三郎の三郎が新しく、早稲崎を
興立させた「出陣」の建物で、明治三十四年(一九〇一)
に新築されたものです。建物は、当時の金銭で五万
円(約一億円)にも及んだといわれています。街道に面し
て建てられた二階建ての全室内部は、明治期の博多町
家の特徴でもある、ゴシック様式を採った欄干が廻る吹
き抜けや、広い土間や御茶室など、見応えのある商家の
造りとなっています。

また、裏面に連綿して、表門を飾った意匠があり、庭
園からは、かつて南側にあった松原(三階建ての建物)を
見ることができたようです。

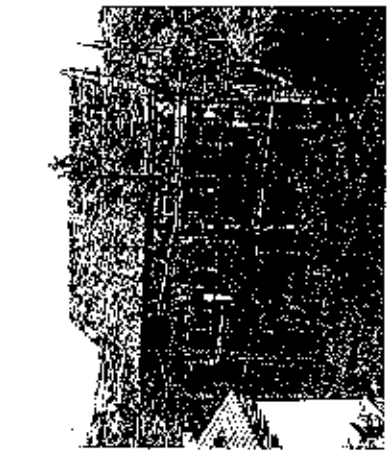
二〇〇五年、この建物を解体するという話がありま
した。しかし、建物解体の機軸を取り扱う油断エシニ
アリス株式会社は歴史的な価値が高く、地域の景観
を悪くするよりも、非常に貴重な建物であると考え、会社旗
白で修復しました。そして、本家代へと受け継ぐ事を目
的に、地域の文化的な拠点として、積極的保存しています。



建屋中の西原町(明治34年) 階段の隙間に大きな梁を引上げている様子が見えます。



西原家の建屋に暮らした水工たち(明治34年)



前原にあった邸屋より見た、早稲崎の様子(明治34年)



福岡県知事の館前邸より見た西原邸(明治40年頃)



西原邸内で家屋写真(明治40年頃)

天平工房（てんぴょうこうぼう） 旧西原邸本家

博多人形師、天平大雅（てんぴょうたいが 本名 小田謙二）氏

築200年になる古民家をリノベーションした、博多人形師、天平大雅さんの工房・ギャラリー。二階のギャラリーでは、思わず声を上げてしまうほど立派な梁で造られた屋根組を見ることができる。ここは糸島の商家・西原家の本家があった場所の一部で、分家だった場所に建つ古材の森と対になるようにして前原宿当時の景観を楽しませてくれる。

「西に前原綿屋あり」と言われるほどの豪商になった西原家の本家は、五つ位の蔵を持ち、元々はろうそくの製造業やしょうゆ、みそなどの醸造業などを行っていた。大きな屋敷の中には馬車道が通り、昔の地形では近い場所にあった船着き場の荷物の往来などに利用されていたらしい。実は屋敷には三階があり、商家では小使いとして働く丁稚(でっち)を住まわせていたという。ここを譲り受けた際、本桐の建具や昔のお殿様のものと思われる刀や槍などが出てきたが、先代が欲のない人だったため譲ったり処分したりしたので、現在は残っていないそうだ。西原家が後に金融業も営み、福岡藩にも多大な金銭的支援をしていたため、報奨の一部だったり、質草にしたものが残っていたのではないかと思われる。

元は奥さまの実家で「幸田洋服店」だった。昔の趣を保てるようにとリノベーションしたが、土壁蔵造りを再現するのに戸建て一軒分の費用がかかったと苦笑い。だが、商店街で近隣の大火事があった際、延焼は免れないと思ったが、土壁に水をかけ防ぐことができたため昔の造りの凄さを実感したという。また火事の際に呆然としていると、知らない人たちが次々と作品を運び出し安全な場所に保管してくれていて、商店街や地域の方々のあたたかさを感じたと話してくださった。

天平工房は博多人形の制作や展示販売を行っており、二階のギャラリーでは伝統の技法で制作した仏像、お雛様、美人、童子など、博多人形や陶芸の技法と胡粉彩色による胡彩人陶彫人形を融和させた、作者考案の創作博多人形、博多はじき、日展作品などを常時展示している。日展工芸美術部門で二度特選を受賞ほか、さまざまな作品展で受賞作品が多数あり、審査員なども務める。2019年、日展準会員に認定(パンフレットより)。

奥さまが陶芸を学ばれたこともあり、博多人形に陶芸の技術が織り込まれた作品の数々。縁起はじきは、正月に若松神社でも販売される。

三国志の人形たちは、衣装部分を陶芸のように釉薬を塗って焼いているため、博多人形にはない独特な美しさや迫力を感じさせる。史実に基づきながらも、こうであったかもしれないと存分に想像をめぐらせながら制作した。「人形えそらごと」といい、必ずしも忠実に史実をなぞらえなくても許されるので、独自の世界観で制作できるのだそうだ。

人形制作にあたっては、まず年齢を設定する。白磁のように美しく、中性的な印象のオブジェのような少女たちの人形は、人間の成長過程で一番骨格の美しい15歳位を設定しているという。なるほど、中性的な美しさを感じるのはそのためなのだ納得した。

光源氏を買い求めた方が、堯上也欲しいと思い他で求めたが、どうしてもしっくりこず、やはりこちらで作ってほしいとお願いされたという逸話もある。また、こぼれ話として色彩も斬新で立派な三国志の人形を作ったが、のちに映画「レッドクリフ」が公開された時、同じようないでたちであったため「映画を真似て作っただろう」と言われたという。もちろん自作の方が先だと笑う。

ギャラリーに並べられた作品の数々、制作秘話、建物の歴史、ご主人・小田さんのお人柄魅力が詰まりすぎて何度でも訪ねたくなる素晴らしい工房である。

旧唐津街道 前原宿にある「天平工房」は、豪商西原家の築約200年の古民家で、博多人形の制作・展示販売を行っています。2階のギャラリーでは、伝統の技法で制作した仏像、お雛様、美人、童子など博多人形や、陶芸の技法と胡粉彩色による胡彩陶彫人形を融和させた、作者考案の創作博多人形、博多はじき、日展作品などを常時展示しています。



工房の向かいには、同じく豪商西原家のお屋敷を活用した「古村の森」があります。地元で採れた糸島の旬の食材を使った食事や喫茶が利用できます。
TEL:092-321-4717 営業時間11:30~14:00
HP <http://www.kozahinomori.net> 水曜定休

Access
博多駅・天神方面より福岡市営地下鉄特にて「筑前前原」or「西原津」行き電車で乗り約40分、筑前前原駅【JK08】で下車。駅の北口より徒歩8分程度です。



創作博多人形 Hakata doll making
天平工房

〒819-1116 福岡県前原市前原中央 3-9-30 TEL.092-323-0975 携帯 090-7166-2346

HP・<http://www.pict-jp.net/odakobo> 太平本舗TEL.092-555569

創作博多人形 Hakata doll making

天平工房





縁起おはじき 3,800円

庭を弾き飛ばして福を呼び込む縁起おはじきを毎年題材を変えて作っております。正月には、前原の産土神である志松神社で販売しております。



博多人形師

天平大雅 (小田謙二)

日展準会員、現代工芸美術家協会本会員、日展福岡会、博多人形師の白石一敏氏に師事し、1986年に工房を開く。2017年、日展工芸美術部門で2度特選を受賞。同年、従来した地区の神社の御神体(本彫)五柱を制作。また、産土の日本国家の地系聖山の彫刻を彫り立てる。

<略歴>

- 1955年 佐賀県生まれ
- 1978年 博多人形師 白石一敏氏に師事
- 1996年 日展 初入選 (以後14回入選)
- 2004年 現代工芸九州会 大分県教育委員会賞
- 2006年 日本現代工芸美術展 現代工芸賞受賞
- 2010年 日展会友に承認 現代工芸九州会福岡県知事賞
- 2013年 日本現代工芸美術展 現代工芸本会員賞
- 2014年 第53回現代工芸本展 NHK公益賞、初審査員
- 2017年 改組西宮会日展 2回目特選
- 2018年 第57回現代工芸本展 2回目審査員
- 2019年 日展準会員に認定



銀行跡

レンガ塀・有刺鉄線(ゆうしてっせん)

昭和 30 年代の商店街の地図には、福岡銀行と記されている。現在の福岡銀行の場所には、佐賀銀行があった。西日本シティ銀行は西日本相互銀行として、移転前の場所にあった。ちなみに西日本シティ銀行は、西日本相互銀行が西日本銀行になって、福岡シティ銀行と合併し西日本シティ銀行となった。

うだつ 古川薬品 創業 100 年以上

屋根の両端に作られた防火壁のこと。江戸時代、火事の際の類焼を防ぐためのものだったが、当時の豪商たちがその高を競いあうように、それぞれ立派なうだつを設けたという。江戸中期には装飾的な意味合いで作られるようになる。「うだつが上がらない」という言葉があるが、うだつを上げるにはそれなりの費用がかかったため、生活が向上しない、状態が今ひとつ良くないということの語源となった。

火の見通り

古い写真では、以前この辺りに火の見櫓(やぐら)が存在した。そのためこの細い通りは火の見通りと名付けられた。火の見まんじゅうという看板があり、この通りで売られていた。昭和 30 年代の商店街の地図にも、確かに火の見まんじゅうの記載がある。

追分石 石道標

街道の分かれ道に建てられた石道標のことで、旅する人々の道案内の役目を果たしてきた。「左 加布里 唐津道」「右 芥屋大門参道 船越漁港二里」と記してある。左に行くと、加布里方面で深江に続く唐津街道で、右に行くと、芥屋の大門、船越漁港方面で船越漁港まで二里(約 8 km)と記してある。芥屋の大門まではさらに距離があるが、今の地域で言えば左が二丈方面で右が志摩方面になるのだろう。

関番所 関番 関番役宅

前原宿は寛永 15(1638)年に関番所が設置され、50 年ほどかけて前原村から民家を移し、徐々に宿場町として整備されたといったようである。関番所は旅人が持つ通行手形を改める場所で、関番という地元から採用された 6 人の役人が交代で勤務し、向かいの関番役宅に居住していた。現在でも関番所があった付近には、萩尾さん、波多江さん、金丸さんなどの苗字を見ることができる。主な仕事は①不審者は前の宿場まで人をつけて送り返すこと②往来切手(パスポートと身分証明を合わせたようなもの)③旅人の荷物に不審な物があれば前の宿場に送り返すこと④女には特に念を入れて改める(調べる)こと。幕府が定めた「入り鉄砲と出女」がここでも徹底されていた。

御茶屋跡 (法林寺 りんでん保育園)

福岡藩主の別邸で、唐津藩主や福岡藩主が前原を訪れた際に休泊した場所。宿場の中でも一番標高が高く、現在残る東面の高低差は当時からの名残。

郡屋 (こおりや)

藩からの重要な伝達があったとき、郡奉行(江戸時代、各藩に置かれて地方の行政にあたった職名。農民の管理や徴税・訴訟などを扱った)や代官・下代・各村の大庄屋・庄屋・組頭などが集まって会議を開いたりした施設。大名が休泊する際は本部になり、遠行に関わる諸道具も納めていた。

代官所

福岡藩内の主な宿場には御茶屋の管理と通行する大名などの送迎のために馬廻組の藩士が代官として駐在していた。特に前原代官は藩境の宿場のため境目奉行も兼ねていた。

馬廻(うままわり) 大将の馬の周囲に付き添って護衛や伝令及び決戦兵力として用いられた武家の仕事の一つ。通常も大名の護衛となり、事務の取次など大名の側近として勤務することもあった。

人馬継所 (じんばつぎしょ)

輸送を担当する宿場の主要施設。通行に必要な人馬の手配や飛脚が運ぶ荷物等も取り扱っていた。大名行列や多くの旅人でにぎわった前原宿では、荷物や籠籠(かご)を運ぶ人や馬が交代をしていた重要な場所だった。人馬継所は深江や今宿にもあった。

参考文献・引用元 及び添付資料(添付資料からも引用)

- ・糸島の古民家 糸島の古い建物を保全活用する会編
- ・福岡県立糸島高等学校郷土博物館公式ガイドブック
- ・街道と宿場町 アクロス福岡文化誌編纂委員会編 海鳥社
- ・ふるさと文化誌 いとしま今昔物語 福岡県文化団体連合会
- ・福岡地方史研究 第48号 福岡地方史研究会
- ・前原宿時間旅行 唐津街道歴史研究所発行
- ・前原歩帖 下戸の会制作 2022/6 発行(第6刷)
- ・Facebook 唐津街道歴史研究所
- ・JUGEM ブログ 前原宿 他 唐津街道歴史研究所
- ・古材の森 公式ページ
- ・古材の森 旧西原邸案内図
- ・昭和30年代 前原商店街地図 糸島新聞社
- ・Instagram、公式ホームページ等のプロフィール記事
- ・その他 インターネット検索記事

※唐津街道歴史研究所は古材の森の有田和樹さん(郷土史研究家)が運営
上記の書籍の「唐津街道」「前原宿」に関する箇所も執筆されている。

今と昔が変わる町

前原歩帖

江戸時代に唐津街道の宿場町として栄えた糸島市の中心部・前原地区は、福岡と唐津の間にある町として賑わっていました。

「風情の場」と呼ばれる古い集落があります。

伊部郷土美術館* 郷土の彫刻家・田原八郎の作品が展示されています。

天平工務 制作博多人形工房 博多はじきも原典 コーヒーざざなみ カレー まんまる食堂

系島くらしxこのき 糸島のクラフトを愛めたセレクトショップです。

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園



糸島市観光協会 前原地区観光協会

7月には糸島の海で「ハマボウ」の競泳大会があります。(駅から徒歩20分)

ペーカリーHARE 糸島市商工会 糸島市商工会 糸島市商工会

その昔、この辺が漁村であったが、江戸時代の宿場町として栄えた。この時代に建てられた建物は、今も残っています。

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園 丸田池公園

講師プロフィール

○野北 智之 氏

福岡県糸島市出身、1981年生まれ。

修猷館高等学校卒業。

明治大学建築学大学院卒業後、某ラグジュアリーブランドで仕事をする。

仕事の傍ら、「国際交流ボランティア」にも精を出す。

十数年の東京生活を経て、妻とともに一年間の世界一周の旅へ。

帰国後、地元・糸島に戻り、ゲストハウス「前原宿ことのは」を運営。

糸島に関するディープな情報をインターネットで発信する。

「糸島コンシェルジュ」。前原エリアの活性団体化「前原もっと楽しもうプロジェクト」も運営する。

ライフワーク: サルサダンス、レイキヒーリング

言語: 英語、少しスペイン語



○千々岩哲郎 氏

福岡県福岡市出身。1981年生まれ、41歳。12歳の時に糸島に引っ越す。

幼少期からアトピー性皮膚炎に悩まされ、健康や環境について深く考えるようになった。

ここのきでは店頭で接客をしているが、「モノに触れて人を知る」をコンセプトにつくり手が身近な自然に寄り添って暮らしている様子や作品が生まれた理由などを伝えるようにしている。

仕入れ、撮影、経理も主な仕事として携わっている。

